

理学系研究科附属植物園本園内・旧小石川養生所井戸柵改修に伴う立合報告

所在地：文京区白山3丁目7番1号

立会日：平成23年1月17日

担当者：成瀬 晃司

1. 立合の経緯

理学系研究科附属植物園本園では、園内に現存する旧小石川養生所井戸の木製保護柵の地中部分が、シロアリ被害によって腐朽し、倒壊する危険性があることから、樹脂製擬木への改修を計画した。本園全域は東京都の旧跡指定を受けていることから、現状変更届の手続きを踏まえた上、文京区教育委員会との協議の結果、施工範囲が狭小で、埋蔵文化財に与える影響は極めて少ないことが予想されるとの判断に基づき、現状の確認と施工状況の立合の形を取った。

2. 改修工事と立合の経過

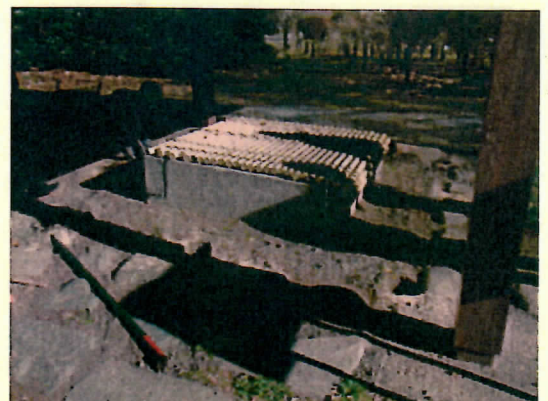
工事はまず木製柵の横木を切断し、支柱を抜き取り、現況の木製柵を撤去した。その結果、抜かれた支柱の地中埋設部はシロアリによる被害がかなり進行していたが、その下端部はいずれも平坦に加工されていたことが確認された。また平成19年に医学部創設150年記念建物新営に伴う試掘調査を行った井戸南側では、GL-20～30cmでローム層が検出されたが、深さ50cmを測る支柱抜き取り孔の壁面にはローム層が認められず、きめ細かい暗褐色土の壁面が検出された。これらの状況より、現況の木製柵支柱は、柱穴を掘削し、その中に埋設して柱周囲に土を埋め戻した、いわゆる掘立柱構造であることが明らかになった。そして補強のため土を埋め戻した後柱周囲に厚さ数cmを測るモルタルを流し固定している。

3. 立合の結果

今回の改修工事は抜き取った柱穴空洞部を利用して、同径の樹脂製擬木を埋設する使用であることから、新たな掘削範囲はほとんど無く、それも現況の掘方内に収まることから、埋蔵文化財への影響は皆無と判断される。



現況木製柵抜き取り状況



抜き取り完了・擬木埋設直前状況